令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

工業高校としての歴史をもち、多様な進路実現をめざす総合学科の高校の定時制の課程として、多様な価値観を認めていく人権尊重の態度を養い、自己肯定感を高め自ら夢や志を抱いて人生を切り拓く力を育てる。

- 1 生涯にわたる幸福をめざし、「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力」をはぐくみ、個々のニーズに応じた学びを実践する。
- 2 仲間づくりや人とのかかわりを通じてコミュニケーションを豊かにすることを自ら学び、人権を尊重し「ともに学び、ともに育つ」学びを実践する。
- 3 様々な体験的活動や外部人材の活用を通じ、自己実現を支援する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と将来をみすえた自主性・自立性の育成
 - (1) Well-being を志向する社会に適応し、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育むため、ICT の 活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の実践をめざす。
 - (2) 自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実を図り、進路選択のサポートを強化し、進路決定率をR8年度に90%をめざす。

R3: 91.0%, R4: 96.2%, R5: 92.0%

(3)「学びに向かう環境づくり」をめざし、欠席・遅刻等の改善を図る。

※全出席率をR8年度に70%をめざす。 R3: 68.4%、R4:62.2%、R5:56.5%

(参考:遅刻・早退を含む出席率 R 5:79.6%)

- 2 豊かな心と健やかな体の育成と人権を尊重する学びの推進(生徒自らが活気ある学校生活を送る)
 - (1)人権感覚を高め、人権意識を深め、互いに多様性を尊重する学びの場を提供し、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。
 - (2) 体験活動等の充実化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓く力を育成する。
 - (3) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的生活習慣と規範意識を身につける。
 - (4) 安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備・提供を図る。特に、ソフト面では SSW (スクール・ソーシャル・ワーカー) や SC (スクールカウンセラー) 等を活用し、ヤングケアラーを含む生徒の課題の克服をめざして家庭・地域・外部機関との連携を図る。

※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、文部科学省が公表した令和4年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率 7.6%以下を維持する。

- 3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上
 - (1) 各分掌、各委員会、各学年における年度末の総括を踏まえ、各担当業務の改善を図る。
 - (2) 0JT と外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上を図り、リーダーの育成に取り組む。
 - (3) 教職員の同僚性を向上し、活気のある職場づくりをめざす。
- 4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する
 - (1) 地域との連携、地元中学校および保護者等への広報に関して HP の活用を充実させる。
 - (2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める。
 - (3) ものづくり体験を通じて定時制の取組を中学校や地域に対して広報する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年12月実施分]

学校運営協議会からの意見

【生徒の評価】

- ・「学校へ行くのが楽しい」と「授業がわかりやすく楽しい」の肯定的 回答が約6割でほぼ同率であることから、授業の楽しさが登校へ向 かう気持ちと一定の関連性があることが推測される。
- ・人権に関する設問で肯定的回答が8割を上回り、かつ、校則を守る 意識、生徒指導に関する肯定的回答が7割を上回っている。日常の 人権教育および生徒指導が評価されたものと考えられる。

【保護者の評価】

- ・生徒指導および生徒の規範意識に関する肯定的回答が8割を上回り、かつ、教育相談についても肯定的回答が約7割あることから、 学校の教育活動に一定の理解と協力を得ることができていると考えられる。
- ・文化祭等学校行事に関する肯定的回答が7割を超えており、生徒と教職員の協力関係が相当程度評価されたものと考えられる。

【課題】

- ・引き続き日常的な取組みの充実を図っていく。
- ・保護者等の学校行事への参加をより一層促していく。
- ・教員同士の同僚性を高め、職場環境の改善を図っていく。

第1回 (6/28)

- ・不登校生徒や支援学級に在籍していた生徒が増えているが、在籍の生徒数は減少している。 出口保証をしているのが定時制の強みだと思うので頑張っていただきたい。
- ・退学の場合、理由が大事であり今後は理由を報告してほしい。

第2回(11/1)

- ・1年生が現時点で退学者0人であるのが素晴らしい。昨年度との比較ができる資料がほしい。
- ・震災体験型施設での取組みを考えてもよいのではないか。
- ・文化祭について保護者等の参加が増えた。可能であれば招待者の範囲をひろげてもよい のではないか。また、授業の成果をもっと展示してもよいのではないか。

第3回 (1/31)

- ・学校教育自己診断の「いじめ対応」に関する設問に対して、生徒の回答「わからない」が 20% だが、日々観察を継続し、相談しやすい雰囲気を醸成することが大切。
- ・専門学校の文化祭イベント(歌のステージ)に参加したことは、魅力ある学校づくりの一つになっていくので継続してほしい。

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的	の取組内容及び自己評		評価指標「R5年度値〕	白コ荻畑
目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		自己評価
1 確かな学力の定着と将来をみすえた自主性・自立性の育成	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実践(2)自主性・自立性の育成を重視し	用や独自プリントの作成によりユニバーサ ルデザインの授業構築をめざし、協働して 深い学びに向かう姿勢を育む。	(1)・学校教育自己診断の 「学校の授業はわか りやすく楽しい」の肯 定的回答率 65%以上 をめざす。[60.8%] (2)・学校教育自己診断の 進路指導に関する設問	(1)・学校教育自己診断の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率 60%(△)(2)・学校教育自己診断の進路指導に関する設問の肯定的回答率 70%(◎)
	たキャリア教育 の充実	を支援し、希望の進路確保の実現をめざす。 (教育産業等の外部機関を活用して有用な 情報提供を行いキャリア意識形成を図るこ と、および、生徒のニーズに応じた科目の選 択や受講指導を実施することを含む) ・ハローワーク等との連携や企業訪問により 就職先の開拓を行い進路決定の向上につな げる。	の肯定的回答率 65%以 上の維持をめざす。 [66.7%] ・応募前職場見学会や企 業訪問を積極的に実施 (就職希望者の 100%) ・進路決定率の水準 90%以上をめざす。	・応募前職場見学会や企業訪問を積極的に実施 (就職希望者の 100%) (○) ・進路決定率の水準 91.3% (○)
	(3)「学びに向かう 環境づくり」と 欠席・遅刻等の 改善	(3)・生徒面談を随時行い、生徒に寄り添った丁寧な対応および進路指導を行う。 ・保護者との連携を充実させ、生徒一人ひとりの課題の早期発見・早期対応につなげる。	[85.7%] (3)・学校教育自己診断の 進路指導に関する保護 者の肯定的回答率 75% 以上の維持をめざす。 [78.9%] ・出席率 70%以上維持を めざす。[79.5%]	(3)・学校教育自己診断の進路指導に関する保護者の肯定的回答率 63.6%(△)※「わからない」と回答した人: 27.3%・本年の出席率 83.3%(◎)
2 豊かな人間性の育成と人権を尊重する学びの推進	(1)人権尊重の教育 の推進	(1)・人権研修を通じて身近な差別事象や人権問題について正しい理解を深め、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。		(1)・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問 で肯定的な回答率 81.3%(◎)
	(2)体験活動等の充 実	(2)・文化祭、球技大会等の体験活動をより一層 充実させ、健やかな心身を育むとともに人 と協働する楽しさを学ぶ場を提供する。 ・生徒会の活動を活発化させ、生徒の自主性 や創造性を育む。 ・部活動の活性化を図る。	校行事に関する設問で 肯定的な回答率 70%維	(2)・学校教育自己診断の学校行事に関する設問で 肯定的な回答率 61.6% (△) ※保護者の肯定的回答率:75.8% ・部活動参加のべ人数 52名 (◎)
	(3)基本的生活習慣 の確立と規範意 識の醸成	(3)・社会人として基本的なあいさつや礼儀に関する習慣を身につける場を提供する。 ・通信機器や情報機器等の適切な使用マナーを含む情報リテラシーを身につけさせる。	(3)・校門前の「あいさつ 運動」を継続し、授業 の開始・終了の「起立・ 礼」を励行する。 ・学校教育自己診断の生 徒の「決まりや校則」 に関する設問で肯定的 な回答率 70%以上維持	(3)・校門前の「あいさつ運動」を継続し、授業の開始・終了の「起立・礼」を励行した。 ・学校教育自己診断の生徒の「決まりや校則」に関する設問で肯定的な回答率 79.7%(◎) ※保護者の肯定的回答率:84.8%
	(4)安全安心な学び の場について、ソ フト面及びハー ド面の両面にお ける整備・提供	制の充実を図り、保護者の理解を得る。ま	をめざす。[72.0%] (4)・学校教育自己診断の保 護者の相談等に関する 設問で肯定的な回答率 70%以上維持をめざす。 [73.6%]	(4)・学校教育自己診断の保護者の相談等に関する 設問で肯定的な回答率 69.7% (△)
		くりをめざす。 ・ヤングケアラーの状況を把握し、教職員間で情報共有を密に行うとともに、SSW の協力を得て外部機関との連携を模索する。 ・「いじめ」の対応について引き続き校内体制の充実を図る。	・学校教育自己診断の生 徒のいじめに関する設 問で肯定的な回答率 60%以上をめざす。 [56.8%] ・学校薬剤師・産業医とも	・学校教育自己診断の生徒のいじめに関する設 問で肯定的な回答率 60.0%(○) ・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全
		・災害時の安全確保の観点から生徒の活動場所 の照度点検と安全な作業のための環境整備 を継続する。	連携して設備の安全状 況把握等に努め施設改 善する。	・子仪条用師・産業医とも連携して設備の女生 状況把握等に努め施設の良好な状態を維持し た。

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

				府立和泉総合高等学校 定時制の課程
3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上	(1)学校運営の活性 化(2)教職員の資質・ 能力の向上とリ ーダーの育成	(1)・年度末の総括を踏まえ、各分掌、各委員会、各学年における自由な意見交換を経て、各分担業務の改善を図る。 ・学校教育自己診断結果等を学校運営協議会等で共有し、意見を集約して学校運営に生かす。 (2)・0JT と外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上を図る。	(1)・学校教育自己診断の 「教育活動全般にわた る評価を行い、次年度の 計画に生かしている。」 の肯定的回答率 50%を めざす。 [37.6%] (2)・キャリア形成に必要な 研修等によりリーダー 育成を図る。	 (1)・学校教育自己診断の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的回答率 64.7%(◎) (2)・初任者研修および十年経験者研修により個々の資質・能力の向上を図った。電子掲示板による連絡会の省略、広報パンフレット更新、広報グッズ作成を計画・実行できた。(○)
	(3)同僚性の向上と 活気のある職場 づくり	・同僚性を向上し、互いに切磋琢磨する職場をつくる。・各分掌、各委員会、各学年等において適切に業務分担し、各教職員がそれぞれの得意分野を生かした充実感を持つことができる雰囲気を作ることで、活気のある職場づく	(3)・ストレスチェック「同 僚からのサポート」の 水準について他校以上 をめざす。 [48<57(他校)]	(3)・ストレスチェック「同僚からのサポート」の水 準について他校より低かった。 [39<56(他校)](△)
		りをめざす。	・ストレスチェックの 「仕事のコントロー ル」における評価を他 校より高く維持するこ とをめざす。 [67>49(他校)]	・ストレスチェックの「仕事のコントロール」に おける評価が他校より高かった。 [60>50 (他校)] (◎)
4 開かれた学校づくりのための取組みの推進	(1)地域との連携、 地元中学校およ び保護者等への 広報	(1)・秋季発表大会・産業教育フェア等へ積極 的に参加し、教育活動の成果を発信し、 中学校・地域等にアピールする。	(1)・生徒の学校行事や課外 活動における様々な活 動について HP のブログ で紹介する。 [月2回程度更新]	
		・保護者の学校活動への参加を促進する。	 ・学校教育自己診断の「学校行事への参加」に関する保護者の肯定的回答率40%をめざす。 [36.9%] 	・学校教育自己診断の「学校行事への参加」に関する保護者の肯定的回答率 45.5%(○) ※文化祭への保護者参加が増えた。
		・学校見学・説明会の申込を随時受け付け、 生徒・保護者・中学校教員にアピールす る機会を設ける。	・学校見学・説明会の随時 実施回数8回以上をめざ す。[8回]	・学校見学・説明会の随時実施回数8回 22 名 (○)
	(2)地域とともに歩 み、親しまれる 学校づくり	実施する。 ・教員による学校周辺地域の清掃活動を、	(2)・学校周辺の清掃等、地域との活動を充実(年 5回) ・毎日のあいさつ運動	(2)・学校周辺の清掃を実施した(5回)(○)
	(3)ものづくり体験を通じた広報	毎日のあいさつ運動時に行う。 (3)・ものづくり体験を通じて定時制の取組に ついて中学校や地域に広報する。	時に学校周辺を清掃 (3)・ものづくり体験を中 学生等に実施する。 [年2回以上]	・毎日のあいさつ運動時に学校周辺の清掃を実施した(○)(3)・中学生等に向けてものづくり体験を2回実施した。(○)
方改革の推進 方改革の推進	ア 労働安全衛生管 理体制の充実	ア 「府立学校における働き方改革に係る取組 みについて」に基づき、業務の効率化を図 ることにより、個々の教職員の活気につな げる。	ア ストレスチェックの「仕事の量的負担」における評価を他校より高く維持することをめざす。 [62>41(他校)]	ア ストレスチェックの「仕事の量的負担」における評価が他校より高かった。 [76>41(他校)](◎)